

(NPO法人 エイズ孤児支援NGO・PLAS)

**立ち止まり対話するための助成金「AKBN（アケボノ）ファンド」
助成事業報告書**

本報告書の提出期限は【 4月30日（火） 】となっています。
報告書は提出後、アカツキ Web サイトにて公開致します。

1. 振り返りエッセイ

AKBN ファンドを活用した「立ち止まり対話する」取り組みについて、いつ何を行ったか・どのようなことが起きたか・メンバーの誰がどう発言したか等について、公開できる範囲で自由な形式にて作文してください。イメージとしては、「エッセイ」のように考えて頂ければと思います。

- 枠の大きさは規定のものから変更せず、その中に収まる分量でお願いします。
- 必ず、アカツキ同席の「ふりかえり評価」の後に作成してください

完全リモートワークを続けて3年半、忘れがちな「余白」を作り出せる組織にしたいと、私たちは AKBN ファンドを活用させて頂き、主に3つの取組みを実施しました。

①ポレポレタイム（常時）

「ポレポレ」とはスワヒリ語で「ゆっくりゆっくり」という意味です。普段の業務からちょっと立ち止まって、1対1で対話を促す仕組みを構築しました。インターン生主導で企画、運営を実施、メンバーからも「心の距離が縮まり相手をより深く知ることができた」と好評でした。これからも継続予定です。

②ワークショップ（オンライン&オフライン各1回）

オンラインでは、お互いの写真をもちより「実は自分・・・」というテーマで話をするワークショップを実施。「えっ！そうだったの！」と新たな一面をお互い知る機会になりました。オフラインでは、ペアになってお互いインタビューをした後に、ペアに自分のことを紹介してもらい相互理解の架け橋ワークショップを実施。当日が初対面のメンバーが多く緊張した様子で始まりましたが、終わる頃には「自己肯定感が上がった！」という嬉しそうなインターン生のコメントや皆の笑顔があり、その流れで実施した懇親会では、さらにぐぐっと距離が縮まったのを感じました。

③システムコーチング（2回）

専門家を招いて職員のみで実施。対面で、じっくりと、それぞれの人生曲線やストレングスファインダー結果をもちより、お互いの特性を知り、認め合い、より組織としての団結力を高めることができました。

各々がリモートワークを続ける中でも、職員・インターン生を含めた全メンバー間でのフラットな関係性を築き「もっとみんなの事が好きになる」、そんな取組みを実施できたのも AKBN ファンドにサポート頂いたからこそです。本当にありがとうございました。

2. 支出報告書

■領収書ほか会計証憑書類の添付、当初予算からの残額の返金は不要です。

■枠の大きさは必要に応じて増減して構いません。

■こちらは「ふりかえり評価」実施前に記入されても構いません。

決算会計報告		
種別	内容	収入金額
<input type="checkbox"/> 本助成金	AKBN ファンド想いと向き合う	199,180 円
<input type="checkbox"/> その他		
費目	対象・使途・目的・内訳（具体的な詳細を記入）	支出金額
<input type="checkbox"/> 人件費	取組みに携わる職員の人件費	59,400 円
<input type="checkbox"/> 諸謝金	システムコーチング専門家への謝金	87,112 円
<input type="checkbox"/> 賃借料		
<input type="checkbox"/> 会議（飲食）費	対面取組み開催時の飲食費	16,175 円
<input type="checkbox"/> 消耗品費	文具購入費	1,156 円
<input type="checkbox"/> 旅費交通費	対面取組み開催時の参加者交通費	13,941 円
<input type="checkbox"/> 印刷製本費		
<input type="checkbox"/> 新聞図書費	ストレングスファインダー購入費（職員 5 名分）	18,875 円
<input type="checkbox"/> 研修費		
<input type="checkbox"/> 通信運搬費		
<input type="checkbox"/> その他		
<input type="checkbox"/> 未使用残額		2,521 円
合計金額		199,180 円

3. 助成プログラムへのフィードバック

・報告書フォーマットがシンプルなため、書きやすく業務時間も圧迫されず、とても有難いです。
 ・領収書・信憑書類提出不要、明細もそこまで細くないため、事務処理時間がかからない点も非常に有難いです。また人件費に助成金を使えることもポイントです。
 ・課題感を感じつつも、AKBN ファンドがなければいまだ腰を据えて取り組んでいなかったであろう分野ですが、「立ち止まり対話する」ことは事業実施や団体運営に根幹から関わる大切な分野。ぜひこれからも続けて頂きたいです。